NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成28年(2016)6月10日

No.102

発行　高津啓洋

華やかにラパッチョが開花

例年のように、今年も日系人から、南米桜と言われているラパッチョが花を咲かせました。場所によっては、全山濃いピンクに包まれるところもあります。６月から８月まで、パラグアイの国中に綺麗な花を咲かせてくれます。

パラグアイはちょうど、日本とは逆の冬に当たる季節で、レダで働いている人達も、朝の寒さをたき火を囲んで出発します。もちろんジャンバーは必須です。しかし、冷たい南極からの南風も止むと、すぐに３０度の暑さになったりして、慣れていない人は体調を崩すこともあります。

今年も、８月末から、日本から青年の植樹活動を中心とした、奉仕隊を迎えますが、いつも温度変化に対応できず苦しんでいます。

そんな寒い季節も乗り越えて、すくすくと育っているのがニームの苗木(上の写真) です。ビクトル君は黙々と苗木を手入れし、植え替えにいそしんでいます。レダ周辺の町々にも、成長したニームの木は、パラグアイ川を上下する船からも良い景色をかもしています。(伊達さんの提供)

パラグアイ訪問記

北米からレダで奉仕をしていた北中忠男さんが様々な訪問記を送ってくれました。数回に分けて掲載します。

パラグアイの南部にあるベラビスタ（bella vista）に住んでおられる紀伊義勝さんという方を尋ねました。この方は、40数年間ベラビスタに住み続け自然体系を研究されてきた人です。

如何にして人類が壊してしまった自然体系を蘇らせるかということに全てを掛けて取り組んでこられたのです。そのために１５町歩の土地を購入され、手も加えることもなく、全くの自然の森林の生育を見守りながら自然体系を観察してこられました。

その間植物の観察だけでなく、野生の動物たちとの交わりも多く、いろいろな動物たちとの共同生活も営んでおられ、動物たちの生態も研究され、多くの剥製（ジャガー・ワニ・アリクイ・カピバラ等々）も千点以上も持っておられ、いずれこれらの剥製を使って自然体系の中での動物の生き方をリアルに表した博物館を作りたいといっている人です。

（下の写真）北中さんが、米国に帰る前にレダにマンゴの苗木を植樹をしたところです。

［お知らせ］東京でのセミナーは、2016年8月6日（土）「ここまで来た地球環境」高津理事長のフィールドワークを含めた実践的環境保護セミナーの開催です。